

*Tokyo Amadeus Chorus*



東京アマデウス合唱団  
第13回定期演奏会

'92 11/7  
石橋メモリアルホール

# PROGRAM

## 1

ハインリッヒ・シュッツ  
*Heinrich Schütz (1585~1672.11.6)*

「キリエ、とこしへの御父なる神」  
Kyrie Gott Vater in Ewigkeit SWV420

★

「おゝ、いと尊きイエスよ、汝の大なる愛はすべての人智を超え給ふ」  
Supereminet omnem scientiam SWV76

「この大なる秘儀のゆえに、我、神のいつくしみをほめ」  
Pro hoc magno mysterio SWV77

★

ディートリッヒ・ブクステフーデ  
*Dietrich Buxtehude (1637~1707.7.?)*

「御使いに告げしめ給へ」  
Befiehl dem Engel, Dass er komm

★

「新たに生まれし幼き御子」  
Das neugebor'ne Kindelein

## 2

マールカントワーヌ・シャルパンティエ  
*Marc-Antoine Charpentier (1643~1704.2.24)*

「四声と木管、バイオリンによるノエルのための真夜中のミサ」  
Messe de Minuit a 4 voix, flutes et violons pour Noël

## はじめに

東京アマデウス合唱団は、1980年の創立以来、これまで皆様のご支援をいただきお陰様をもちまして、この度、第13回定期演奏会を開催することができました。

本日のご来場に、心から厚くお礼申し上げます。

さて、今回私達は、久々にモーツァルトを離れて、今から300年前、17世紀後半に活躍した三人の作曲家のクリスマスに関する作品に取り組み、その真髄に触れ、将来の活動に資すべく勉強して参りました。

本日は、H.シュッツ(1585～1672)、D.ブクステフーデ(1637～1707)、M-A.シャルパンティエ(1643～1704)の作品を演奏いたします。彼らの生きた時代は、コロンブスのアメリカ大陸到達からのM.ルターの宗教改革を経て、ヨーロッパ諸国が「近代」に向け胎動を始めた頃といえるでしょう。

フランスでは、ヴェルサイユ宮殿の建築など、宮廷文化華やかになりし王政時代でもあります。その一方ドイツでは、庶民の生活環境は疫病や戦争から多くの人々を死なせ、国土の荒廃を招くなど、非常に苦しかったことも事実です。

このため教会の祈りにおいては『この世に生を受けた甲斐は何なのか。人生とは何か幸せとは何か。』——結局この世に良いことは何もない。真の「幸福」は別の世界にしかないのではないか。と言った人々のやりどころのない気持ちが、同時代の作曲家の感性に大きな重みをもって訴えるところとなったのです。

三人の作曲家の作風はそれぞれ異なっており、特に三十年戦争(1618～1648)の戦場となったドイツの二人の作曲家の作品には、その根底に「この世の苦痛」と「来る世での救いと希望」の対照が流れているのに対し、フランスの宮廷作曲家のシャルパンティエは、民謡の旋律を用いるなど、楽しげで安らかなクリスマスの雰囲気伝わってまいります。ここにドイツとフランスそれぞれの一断面を見ることができるのではないのでしょうか。

このような時代の教会音楽を、今宵私達は演奏いたします。その中から、17世紀のヨーロッパを、皆様にその片鱗でもお感じいただくことができましたなら、これこそ私達の至福であります。

来年開催の第14回定期演奏会におきましては、モーツァルトの作品を取り上げる予定です。団員一同、一層精進に励むことを心しております。

今後とも、皆様のご支援を切にお願い申し上げます。

1992年11月7日

東京アマデウス合唱団  
団長 橋本克久

# PROGRAM NOTES

## ハインリッヒ・シュッツ Heinrich Schütz (1585~1672.11.6)

「キリエ、とこしへの御父なる神」は、シュッツがヴァイセンフェルスに隠居するようになった1657年、弟子のクリストフ・キッテルの働きで出版された「12曲の教会聖歌集」の第1曲で、歌詞・旋律ともにルター派の典礼ミサとして今日も歌われる fons bonitatis のキリエから採られています。作曲年代は1620年代であると思われます。

「おゝ、いと尊きイエスよ、汝の大なる愛はすべての人智を超え給ふ」と「この大なる秘儀のゆえに、我、神のいつくしみをほめ」の2曲は、シュッツがザクセン選帝侯ヨハン・ゲオルグ一世のもとで、宮廷貴族の音楽教師兼礼拝堂の楽長として、ドレスデンに居た時、ドイツ皇帝フェルディナンド二世の大臣でカトリック教徒のエゲンベルグ侯に献呈するために1624年に作曲され、翌1625年にラテン語によるモテット集 *Cantiones Sacrae* として出版された第一集40曲の中の第24曲と25曲です。歌詞はアンドレア・ムスルクスの「敬虔なる祈りの規範と古い聖なる公教要理」と題する祈禱集から採られています。2曲は対に成っていて、前者はキリストの受肉、十字架の上の死、復活による死への勝利を背景に、神格をそなえたキリストが、人のかたちをとり、この世の私たちのために命を捨てて下さった大いなる愛を感謝をこめて語り、後者は、その頌栄として歌われるように配慮されています。モンテヴェルディ風の叙唱的な音綴式朗唱スタイルで展開しますが、全体的に表情豊かで、「天のもろもろの軍勢達、彼等および人の子の上に神を見て震へおののく」という部分で、ヴェネチア風のトレモロが見られます。

## ディートリッヒ・ブクステフーデ Dietrich Buxtehude (1637~1707.7.?)

「御使いに告げしめ給え」は、作曲年代を特定する事はできませんが、9月29日行なわれる大天使ミカエル、ガブリエル、ラファエルのためにリューベックで作曲されたという説もあり、歌詞は出エジプト記23:20の「見よ、私は使をあなたの前に使わし、あなたを道で守らせ、私が備えた所に導かせるであろう。」という、神がモーセに言われた御言葉に基づいています。この祝日のための音楽は、戦う天使を表現するのが普通ですが、ブクステフーデの曲では、私達を見張り、守っていて下さる天使が強調されています。

「新たに生まれし幼き御子」は、彼が、1668年以降リューベックの聖マリア教会で終身オルガン奏者を務めた時代、待降節から降誕節にかけて *Abent Musik* (夕べの音楽) という一種の公開演奏会を開いた折に、降誕を祝うために作曲したカンタータで、終曲部分で聖年 *Jukejahr* に言及している点から、1670年か1695年のどちらか (おそらく後者) の年に作曲されたようです。曲の主題は冒頭の前奏でヴァイオリンによって演奏され、その主題が合唱とオーケストラの間奏でしばしば繰り返され終曲の「幼きイエスはまことの聖年をもたらし給う」の部分でも変形されて現われます。歌詞に従って表現に工夫が凝らされ、動きの多様な中に厳然として現われる *アダージョ* (「神、和らぎて、我らの友と成り給えり」 *Ist Gott versohnt und unser Freund.*) の六小節が印象的です。

## マールカントワーヌ・シャルパンティエ Marc-Antoine Charpentier (1643~1704.2.24)

「四声と木管、バイオリンによるノエルのための真夜中のミサ」は、1690年代にパリのサン・アンドワーズ通りにあったイエズス会のサン・ルイ教会の真夜中のミサのために作曲されたと考えられています。ドラランド、リュリイなど宮廷礼拝堂作曲家が国王ルイ十四世のミサのために通常の様式のミサ曲をほとんど書かず、専らモテットを作曲したのに対し、シャルパンティエは12曲ものミサ曲を遺しました。(うち1曲は器楽だけのためのもの) 多様性を特徴とする彼の作品群の中でも、このミサ曲はひとときはユニークで、各章ごとにいくつもの伝統的なフランスのノエルの旋律が使われ、しかもそれが器楽とオルガンによって強調されます。例えば、冒頭のキリエを導く前奏で2本の木管が演奏する旋律は、「ヨセフはよくぞエッサイの娘と結婚したものだ。人妻にして処女とは全く前代未聞。神様がそこに働かれたのだ。……」と続くノエルの旋律を演奏しているのです。グロリア章の中の *Laudamus-te* の部分では、「さあ、シャルトルの旦那方、不景気な顔をしないで、ここに来ておとめマリアからイエス・キリストがお生まれになったこの日を喜び、祝う心になってくださいよ。家畜小屋の中の牛やロバのそばで生まれて、ドンドン、その中で寝ておいでになるのを、ララ。」というノエルの旋律に乗って歌われるのですが、シャルパンティエが1690年代初めから1698年まで、シャルル公オルレアン家の音楽教師であった関係を反映していると思われます。ローマにならってヨーロッパ諸国のカトリック教会では、真夜中のミサ (真夜中過ぎ)、黎明ミサ (暁方)、日中ミサ (午前中) と三回ミサを降誕祭に行なう習慣が定着しつつありましたが、特に真夜中のミサは、ノエル (カロル) やオルガン演奏をまじえて、大衆とともに歌ミサで行なうのがフランスの宮廷外では一般的でした。この曲は、その雰囲気をよく反映し、しかもミサの進行に従って、影の聖誕劇を大衆に理解させるように構成されているのです。(筆:野口 碩)

# PROFILE

## ソプラノ 高橋節子

東京芸術大学卒業。同大学院修了。伊原直子、戸田敏子、藤田道子の各氏に師事。在学中より芸大バッハカンタータクラブに在籍し、小林道夫氏の指導のもと、多くのカンタータを学び演奏する。また芸大定期演奏会ハイドン「天地創造」にソリストとして出演したのをはじめ、バッハ「ヨハネ受難曲」、モーツァルト「ハ短調ミサ」などのソリストを務める。二期会準会員。

## メゾソプラノ 藤井あや

東京芸術大学及び東京コンセルヴァトアール尚美ディプロマコース卒業。現在東京芸大大学院に在学中。芸大の卒業演奏会、尚美フレッシュコンサート、オペラ「魔笛」「ジャンニ・スキッキ」他に出演。オペラや宗教曲、古典から現代まで、ソロ・アンサンブルを問わず広い分野で活躍している。岡部多喜子、戸田敏子、伊藤亘行、青木道子の各氏に師事

## アルト 中巻寛子

東京芸術大学音楽科卒業。現在同大学院博士後期課程に在学中。音楽を岡部多喜子、戸田敏子、毛利準の各氏に師事。バロック期の音楽作品を中心に研究・演奏する一方、イタリア近代歌曲までの幅広いレパートリーで活動している。

## テノール 大島 博

中央大学法学部卒業後、1981年東京芸術大学音楽科入学。渡辺高之助、高丈二、中山悌一、原田茂生の諸氏に師事。86～88年ミュンヘン音大でエルンスト・ヘフリガー氏に学ぶ。89年国際シューマンコンクール4位。90年以來フィッシャー・ディスカウ氏に師事。91年ベルリンフィル・ジルベスター・コンサートにソリストとして出演。現在東京芸大博士課程在籍中。

## バス 野本立人

東京芸術大学卒業。同大学院在学中。伊藤亘行、原田茂生、多田羅迪夫、羽根功二の各氏に師事。芸大メサイヤのソリストに選抜。モーツァルトのミサ曲、バッハのカンタータ等のソリストとして多くの合唱団と共演している。合唱指揮者としても活躍中。

## オルガン 水野克彦

東京芸術大学卒業。ピアノを滝崎鎮代子、クラリネットを千葉国男、室内楽を細野孝興、オルガンを今井奈緒子の各氏に師事。現在はピアノ伴奏、オルガン、通奏低音の他、合唱指導、作曲と幅広く活躍。1987年から当合唱団の伴奏、合唱指導を担当。日本オルガニスト協会会員。

## 指揮 斎藤明生

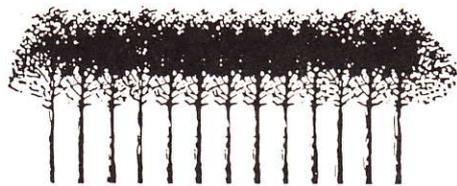
東京芸術大学卒業。同大学院修了。R. フィッシャー、Ph. フッテンロッハー、池宮英才、小林道夫の各氏に師事。「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「ロ短調ミサ」「メサイヤ」などにソリストとして出演。91年にはライブチヒ聖トマス教会にて礼拝式のソリストで出演。現在東京バッハアカデミー講師、芸大バッハカンタータクラブ、ヴォイス・ラボ所属。宗教音楽研究会合唱団指揮者。1987年から当合唱団の指導に当たっている。

## 東京アマデウスアンサンブル

大金和憲 (Bf1) 中野達彦 (Bf1) 田中淳生 (Vn & Vla)  
大谷美佐子 (Vn) 石井優子 (vn) 伊藤恵以子 (Vc) 桜井 茂 (Kb)

## 東京アマデウス合唱団

ソプラノ/伊東茂美 大久保ルミ子 落合直子 桑島加代子  
鈴木奈々子 鈴木真澄 須藤佳代子 辻村順子 村松あおい  
アルト/伊藤正子 大岩幸子 加藤美穂子 川島淳子  
国府田文子 小林真子 近藤むつ子 重泉秀子 高橋理子  
辻 敏子 西川正子 野田妙子 平野玲子 宮崎米子  
テノール/伊原 宏 片岡 繁 中屋哲夫 松平新太郎  
柳沢琢麿 吉田一郎 吉田英人  
ベース/柿沼 哲 菅原定三 根本 剛 橋本克久  
野口 碩



1981 February Mozart: REQUIEM  
 1981 November Handel: MESSIAH  
 1982 November Fauré : REQUIEM  
 1983 September Mozart: KRÖNUNGS MESSE  
 1984 September Mozart: REQUIEM  
 1985 October Bach : KANTATE Nr.106  
 1986 October Mozart: GROSSE MESSE  
 1987 October Schütz : MUSIKALISCHE EXEQUIEN  
 1988 December Mozart: VESPERAE  
 1989 November Mozart: REQUIEM  
 1991 February Mozart: LITANIAE  
 1991 November Mozart: DOMINICUS MESSE  
 1992 Nov. Charpentier: MESSE DE MINUIT POUR NOEL

## 東京アマデウス合唱団 合唱団員募集

東京アマデウス合唱団では一緒に歌ってくれる仲間を募集しています。次回の第14回定期演奏会（1993年秋開催予定）では、W. A. モーツァルトの教会音楽に取組みます。練習日などは下記の通りです。皆様のお越しを団員一同お待ちしております。

- 練習：毎週水曜日、PM6:30～9:00
- 場所：早稲田奉仕園・スコットホール  
（地下鉄早稲田から徒歩5分）
- 指導者：斎藤明生
- 会費：入団費 1,000円  
団費 3,000円/月  
他に楽譜代等



Heinrich Schütz (1585 ~ 1672.)  
Kyrie Gott Vater in Ewigkeit SWV 420

Kirie Gott Vater in Ewigkeit,  
Groß ist dein Barmherzigkeit,  
aller Ding ein schöpfer und  
Regierer: eleison.

Christe aller Welt Trost,  
uns Sünder allein du hast erlöst.  
O Jesu Gottes Sohn, unser Mittler  
bist in dem höchsten Thron;  
zu dir schreien wir aus Herzens  
Begier: eleison.

Kyrie Gott Heiliger Geist, tröst,  
stärk uns im Glauben allermeist,  
daß wir am letzten End  
fröhlich uns scheiden aus diesem  
Elend: eleison.

Supereminet omnem scientiam SWV 76

Supereminet omnem scientiam, o bone  
Jesu, tua magna caritas,  
quam ostendisti nobis indignis  
pro sola bonitate et pietate tua,  
humanam etenim  
non angelicam suscipiens naturam et  
eam stola immortalitatis glorificans  
vexisti super omnes coelos,  
super omnes choros angelorum,  
super Cherubim, super Seraphim  
ad dexteram Patris.  
Te laudant angeli, adorant dominationes  
et omnes virtutes coelorum  
tremunt super se et super hominem Deum.

Pro hoc magno mysterio SWV 77

Pro hoc magno mysterio pietatis  
benedico et glorifico nomen sanctum  
tuum, Rex Christe, fili Mariae,  
fili Dei viventis.  
Tibi sit honor et gloria cum patre et  
sancto spiritu in sempiterna saecula.

主よ、とこしなへにまします御父なる神よ  
主よ、とこしなへにまします御父なる神よ、  
万物の創り主にして、統治者なる君よ、  
あわれみ給へ。

キリストよ、全世界のなぐさめ主よ、  
君はただ罪人なる我らを救ひ給えり。

おお神の御子なるイエス、  
我らのとりなしの君よ、  
汝は今高き御座にいます。

我ら汝に向ひて心より求めて叫ぶ、  
あわれみ給へ。

主よ、聖霊なる神よ、我らを慰め、  
いと厚き信仰によりて強め給へ。

我らいまわのきはに喜びて、  
この異郷を去るべく、あわれみ給へ。

(Zwölf geistliche Gesänge 第1曲SWV420)

すべての人智を超え給ふ

おお、いと尊きイエスよ、  
汝の大なる愛はすべての人智を超え給ふ。  
その愛を汝の慈しみとまことのみによりて、  
取るに足らぬ我らに現し給へり。  
すなはち御使のそれにあらずして、  
人の子のかたちを取り、  
その身にまとふ不死の衣を栄光に輝かせつつ、  
もろもろの天を超え、  
もろもろの御使達の群を超え、  
ケルビムを超え、セラフィムを超えて、  
御父の右にあげられ給へり。  
汝を御使等ほめうたひ、  
もろもろの支配者達がめうやまひ、  
天のもろもろの軍勢達彼等の上に、  
人の子らの上に神を見て震へおののく。

(Cantiones Sacrae 第1集第24曲SWV76)

この大なる秘儀のゆえに

この大なる秘儀のゆえに、  
神のいつくしみをほめ、  
汝の聖なる御名をたたへまつる。  
マリアの子にして活ける神の子、  
王なるキリストよ、  
御父と聖霊と共に、  
汝に誉れと御栄えとこ世にあれ。

(Cantiones Sacrae 第1集第25曲SWV77)

Dietrich Buxtehude (1637~1707)  
Befiehl dem Engel, daß er komm

Befiehl dem Engel, daß er komm  
und uns bewach, dein Eigentum,  
gib uns die lieben Wächter zu,  
daß wir vorm Satan haben Ruh.

So schlafen wir im Namen dein,  
dieweil die Engel bei uns sein,  
Du heilige Dreifaltigkeit,  
wir loben dich in Ewigkeit. Amen.

Das neugebor'ne Kindelein

Das neugebor'ne Kindelein,  
das herzeliebe Jesulein  
bringt abermal ein neues Jahr  
der auserwählten Christen Schar.

Des freuen sich die Engelein,  
die gerne um und bei uns sein  
und singen in den Lüften frei,  
daß Gott mit uns versöhnet sei.

Ist Gott versöhnt und unser Freund,  
was kann uns tun der arge Feind?  
Trotz Teufel, Welt und Höllenpfort!  
Das Jesulein ist unser Hort.

Es bringt das rechte Jubeljahr.  
Was trauern wir dann immerdar?  
Frisch auf, es ist jetzt Singens Zeit:  
das Jesulein wend't alles Leid.

御使に告げ給へ

御使に、来りて汝のおのがものとせる我らを  
守れと告げ、我らによき見張りを付け給へ、  
我らサタンに向ひて安き心を得べく。  
かくありてこそ我ら汝の御名によりて眠るな  
り。その間御使我らとともにいませば。  
聖なる三位一体の君よ、  
我らとこしなへに汝をほめまつる。アーメン

いま生まれ給ひしみどりご

いま生まれ給ひしみどりご、  
いしめでたき幼きイエス、  
選ばれしキリスト者の群に、  
新しき年を再びもたらし給ふ。  
それゆえに小さき御使ら、  
よろこびて我らをめぐり、  
よろこびめぐりて我らの傍らにあり、  
大空に向ひて高らかにうたふ、  
「神我らと和らぎ給へり」と。  
神和らぎて我らの友と成りせば、  
あしき敵ども何を我らに為し得んや?  
悪魔もこの世も黄泉の門も物のかずかは!  
幼きイエスこそ我らの避け所、  
まことの聖年をもたらし給ふ。  
さらば我らいつまでも何を嘆きか悲しむや?  
奮ひ起て、今こそ讚美のとき。幼きイエス、  
すべての悩みを変え給へば。

## I. KYRIE

Kyrie eleison.  
Christe eleison.  
Kyrie eleison.

## II. GLORIA

Gloria in excelsis Deo.  
Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.  
Laudamus te. Benedicimus te.  
Adoramus te. Glorificamus te.  
Gratias agimus tibi propter magnam gloriam tuam.  
Domine Deus. Rex caelestis.  
Deus Pater omnipotens.  
Domine Fili unigenite, Jesu Christe.  
Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.  
Qui tollis peccata mundi, miserere nobis.  
Qui tollis peccata mundi,  
suscipe deprecationem nostram.  
Qui sedes ad dexteram Patris, miserere nobis.  
Quoniam tu solus Sanctus, Tu solus Dominus,  
Tu solus Altissimus. Jesu Christe.  
Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris.  
Amen.

## III. CREDO

Credo in unum Deum.  
Patrem omnipotentem, factorem caeli et terrae,  
visibilium omnium, et invisibilium.  
Et in unum Dominum Jesum Christum,  
Filium Dei unigenitum.  
Et ex Patre natum ante omnia saecula.  
Deum de Deo, lumen de lumine,  
Deum verum de Deo vero.  
Genitum, non factum, consubstantialem Patri:  
per quem omnia facta sunt.  
Qui propter nos homines  
et propter nostram salutem descendit de caelis.  
Et incarnatus est de Spiritu Sancto  
ex Maria Virgine:  
ET HOMO FACTUS EST,  
Crucifixus etiam pro nobis:  
sub Pontio Pilato passus,  
et sepultus est.  
Et resurrexit tertia die, secundum Scripturas.  
Et ascendit in caelum: sedet ad dexteram Patris.  
Et iterum venturus est cum gloria  
judicare vivos, et mortuos:  
cujus regni non erit finis.  
Et in Spiritum Sanctum, Dominum, et vivificantem:  
qui ex Patre, Filioque procedit.  
Qui cum Patre et Filio simul adoratur,  
et conglorificatur:

## I. キリエ

主よ、あわれみたまえ。  
キリストよ、あわれみたまえ。  
主よ、あわれみたまえ。

## II. 神に栄光あれ

天のいと高きところには神に栄光、  
地には善意の人に平和あれ。  
われら主をほめ、主をたたえ、  
主をおがみ、主をあがめ、  
主の大いなる栄光のゆえに、感謝したてまつる。  
神なる主。天の王。  
全能の父なる神よ。  
主なる御ひとり子、イエス・キリストよ。  
神なる主、神の小羊、父の御子よ。  
世の罪を除きたもう主よ、われらをあわれみたまえ。  
世の罪を除きたもう主よ、  
われらの願いを聞き入れたまえ。  
父の右に座したもう主よ、われらをあわれみたまえ。  
主のみ聖なり、主のみ王なり、  
主のみいと高し、イエス・キリストよ。  
聖霊とともに、父なる神の栄光のうちに。  
アーメン。

## III. われは信ず

われは信ず、唯一の神。  
全能の父、天と地、  
見ゆるもの、見えざるものすべての造り主を。  
われは信ず、唯一の主、神の御ひとり子、  
イエス・キリストを。  
主はよろず世のさきに、父より生まれ、  
神よりの神、光よりの光、  
まことの神よりのまことの神、  
造られずして生まれ、父と一体なり、  
すべては主によりて造られたり。  
主はわれら人類のため、  
また、われらの救いのために、天よりくだり、  
聖霊によりて、  
おとめマリアより御からだを受け、  
人となりたまえり。  
ポンシオ・ピラトのもとにて、  
われらのために十字架につけられ、  
苦しみを受け、葬られたまえり。  
聖書にありしごとく、三日目によりみがえり、  
天にのぼりて、父の右に座したもう。  
主は栄光のうちに再び来たり、  
生ける人と死せる人とを裁きたもう。  
主の国は終わることなし。  
われは信ず、主なる聖霊、生命の与え主を。  
聖霊は父と子よりいで、  
父と子とともに拝み、  
あがめられ、

qui locutus est per Prophetas.  
Et unam, sanctam, catholicam  
et apostolicam Ecclesiam.  
Confiteor unum baptisma in remissionem peccatorum.  
Et expecto resurrectionem mortuorum.  
Et vitam venturi saeculi.  
Amen.

#### IV. SANCTUS

Sanctus, Sanctus, Sanctus,  
Dominus Deus Sabaoth.  
Pleni sunt caeli, et terra gloria tua.  
Hosanna in excelsis.

#### V. BENEDICTUS

Benedictus qui venit in nomine Domini.  
Hosanna in excelsis.

#### VI. AGNUS DEI

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,  
miserere nobis.  
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,  
miserere nobis.  
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,  
dona nobis pacem.

また預言者によりて語りたまえり。  
われは一・聖・公・  
使徒継承の教会を信じ、  
罪のゆるしのためなる唯一の洗礼を認め、  
死者のよみがえりと、  
来世の生命とを待ち望む。  
アーメン。

#### IV. 聖なるかな

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、  
万軍の神なる主。  
主の栄光は天地に満つ。  
天のいと高きところにホザンナ。

#### V. ほむべきかな

ほむべきかな、主の名によりて来たる者。  
天のいと高きところにホザンナ。

#### VI 神の小羊

神の小羊、世の罪を除きたもう主よ、  
われらをあわれみたまえ。  
神の小羊、世の罪を除きたもう主よ、  
われらをあわれみたまえ。  
神の小羊、世の罪を除きたもう主よ、  
われらに平安を与えたまえ。